JCAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

ワシントンDC日本商工会会報

5月号 2012年 No. 443

目次

- 「桜寄贈100周年記念行事の終了に際して」・・・2
- 「シンポジウム開催のご報告」・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 「ワシントン日本商工会ファウンデーション　日本語テント『Let's　Learn　Japanese　日本語できます！』・・・・・・・・・・・・・・・・

「桜寄贈100周年記念行事の終了に際して」

ワシントン日本商工会財団理事長　大出　隆

新緑の候、会員の皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、皆様方のご協力とご支援のもと、桜寄贈100周年記念行事は無事に終了しました。また、この記念行事に際して商工会財団が募りました募金活動に対して、多くの皆様方からご協力を賜り、募金総額は4月末時点で2M$に達し、目標を大きく上回ることができました。東日本大震災への義捐金に続き、皆様方から寄せられました温かいご支援に心より感謝申し上げます。（募金に関する詳細は、別途ご報告致します。）

この記念すべき行事に際し、ワシントン日本商工会及び商工会財団は大辻商工会長の下、ニューヨーク商工会議所及び在米日本大使館等と共に、次の100年にも日米の友好な関係が育まれることを祈念して様々なプログラムを実施致しました。繰り返しになりますので、詳細は省きますが、タイダル･ベイスンでの景観整備や全米30を超える都市での桜植樹も好天に恵まれ無事に終えることができました。こうしたプログラムを通じ、100周年の節目に咲いた桜に、新たな日米関係の息吹を感じられた方も多かったのではないかと思います。

これらのプログラムの中で、マンスフィールド財団を中心とした米国の若手日本専門家による日米関係の将来ビジョンの策定支援、それに米国における日本語教育支援につきましては、商工会･商工会財団が主導しました。この2つのプログラムについて状況をご報告させて頂きます。

（1）日米関係の将来ビジョンの策定支援

20年先の日米関係のあるべき姿を検討するプロジェクトで昨年9月にマンスフィールド財団に業務委託をしました。安全保障問題では既に様々な研究の積上げがあるので、今回はビジネスの観点からの提言作りを目指し、商工会関係者が積極的に議論に参加しています。昨年12月にプロジェクトチームは日本の政界、実業界他の有識者と日米関係の現状と将来像につき意見交換を実施しました。今年6月に中間報告を行い、11月にはプロジェクトメンバー代表者が再度訪日して日本側関係者と詳細詰めを行い、来年初めに日米双方のビジョンを網羅した最終報告書を発表予定です。

（2）日本語教育支援

日本語を話せる米国人の育成は、日米関係の基盤強化に重要な課題となっており、米国の次世代を担う若者に日本や日本語への関心を惹き付け、ワシントンDC地域やNY地域の学校での日本語や日本文化教育を支援すべく“サクラグラント”を設立しました。本年度の募集は6月末に申請を締め切ります。本グラントは今後数年継続する予定です。

≪シンポジウムの開催≫

4月7日に「Global Opportunities through Japanese Language」と題するシンポジウムを開催しました。当日は300名を超える学生や教師などの参加者があり、参加した多くの学生から、参加して良かったと好評の声を頂きました。準備段階で、日本語を学ぶ学生には日本企業への就職や日本企業でのインターンを希望される方が多いことが分かり、日本企業の人事担当者にもパネリストとして出席して頂きました。さながら就活の様相を呈した一面もありましたが、今回の経験を活かして、今後更に充実した企画を検討したいと思います。

マンスフィールド元駐日大使が言われたように、「日米関係は極めて重要な二国間関係である」との認識に立ち、日本語を学び、そこからアウトリーチして日本文化を理解する米国人が一人でも多く増えるよう、これからも商工会･商工会財団関係者、一団となって努力して参りますので、皆様方からの一層のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

以上

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

シンポジウム開催のご報告

4月7日（土）、ワシントン商工会はJCAWファウンデーションならびにニューヨーク日本商工会議所（JCCI）と共催でワシントンコンベンションセンターにて日本語教育支援シンポジウム、名づけて“Global Opportunities Through Japanese Language”を開催しました。少し長くなりますが、シンポジウム開催までの経緯から当日の様子までをご紹介いたします。

1. シンポジウム開催の経緯

会員の皆様でご参加された方は覚えていらっしゃるかと思いますが、昨年9月に商工会の特別研修で地元の大学における日本語教育の現状を先生方から伺った際に、スカイプで参加したゲストスピーカーのメーガンさん（JET経験者、双日にてインターン研修）は日本語学習の面白さを情熱的に語る一方で、せっかく学んだ好きな日本語を社会に出て使う場や機会が少ない、あるいはその機会に関する情報が少ないという実情を訴えました。同じ悩みを持つ日本語学習のアメリカ人学生も多いものと察することができました。バブル崩壊後、米国、特にワシントンでは斜陽気味に見られる日本と、その言葉や文化を好み、アニメなどサブカルチャーの世界にとどめず、社会に出てからも日本語を使い続けたいとの情熱を今のアメリカ人の若者が持っているということは、我々日本企業社員にとって驚きの発見であるともに、何かしてあげられないか、いやすべきではないか、との気持ちが商工会理事の間でも持ちあがりました。

2. シンポジウムの位置付け

週末の早朝にも関わらず、多数の学生さんや教育関係者の皆さんが集まってくださいました。

この特別研修の時点で当商工会として2012年の桜100周年に向け地元の日本語教育支援事業を準備中で、そこでは①幼児から大人まで不特定多数の米国人に日本語に興味を持ってもらう桜祭りストリートフェスティバル日本語テント、②K-12教育の中で日本語教育を行っている学校や先生へのグラント、③日米協会主催の日本語高等スキルを競うジャパンボウルの全米展開支援、といった日本語への関心を持つエントリーレベルから高等教育の出口までを支援する3つの事業を想定していました。そこで冒頭の「社会に出てからも日本語を使い続けたい大学生等向けの支援」をこれら3つのプログラムの延長線上に4つ目の事業と位置付け、社会に出てからも日本（日本語や日本文化）と関わっていくためのExitモデルの情報を提供する「シンポジウム」、としました。時まさにグローバル化の時代において、日本企業もグローバル化人材として「非日本人」の戦力化を進めている最中にあり、デマンド（企業等組織の人事）とサプライ（日本語学習中の大学生・高校生）の間の就職やインターンシップに関する情報共有とネットワーキングの場としてこれを企画することにしました。

3. シンポジウムの構成

「グローバル化」の文脈における「日本企業の海外展開の位置付け」、その中での「非日本人人材の位置付け」というデマンドサイドの視点と、「米国における高等日本語教育」、「米国人学生の

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

日本への興味と背景」といったサプライサイドの視点についてキーノートスピーカーとパネルディスカッションを行い、合間に学生と社会人のネットワーキングタイムを織り込むという構成にしました。デマンドサイドのキーノートスピーカーについては日本企業におけるダイバーシティ（女性と外国人の積極登用）を長年主張されてきたフクシマ咲江様（G&S International社代表取締役、経済同友会副代表幹事、ブリジストン、味の素、ベネッセなどの社外取締役）、サプライサイドとしてはコロンビア大学のゲラルド・カーチス教授の推薦で、スタンフォード大学のインドラ・レビー教授に参加頂くことになりました。加えて、駐米特命全権大使藤崎一郎様、元USTRのミッキー・カンター氏にもキーノートスピーカーとして参加頂くことになりました。パネルセッションではPanel 1として地元の高校、大学で米国人学生に日夜日本語教育を行っている先生方と今回のシンポジウム開催のきっかけとなったメーガンさんに先生と学生のニーズを語ってもらい、Panel 2では日本企業の人事担当者による企業側の外国人材雇用の状況と方針を議論頂き、Panel 3では日本政府と米国務省の代表者による政府の立場での雇用のグローバル化を披露して頂き、最後にPanel 4で現在日本企業に勤める米国人社員が夫々の体験と今後の抱負を「先輩」として学生に語ってもらう構成としました。

ワシントン日本商工会の大辻会長の挨拶にてキックオフ。

4. シンポジウム当日

4月7日（土）の8時に受付を開始、当日はイースター並びにパスオーバーウィークエンドにも拘らず、地元の大学生、高校生、教員、企業関係者など計300名以上が会場のワシントンコンベンションセンターに集いました。前日、社会人側の自己紹介と打合せを兼ねた前夜祭では遠く岐阜や名古屋、東京からワシントン入りされた企業関係者、東京からお越しのグレンフクシマ・フクシマ咲江ご夫妻、サンフランシスコから来られたインドラ・レビー教授、ロスからは伊藤実佐子Japan Foundation代表、ニューヨークから企業人事代表の皆さまが会場に駆け付けられました。その前夜祭では、翌日に相対する学生に対し、「日本（日本語と日本文化）を選択したことは正解である！」との共通のメッセージを出すことで皆さん意気投合していたため、当日も皆さま非常に士気高く学生に語られました。早朝にもかかわらず最初のスピーカーとして立たれた藤崎駐米特命全権大使はご挨拶の中で、米国における日本語への人気が戻りつつある状況を披露されると共に、日本企業のグローバル展開の中でダイバーシティの重要性を掲げられるフクシマ咲江さんの講演に対する高い期待を語られました。そのフクシマ咲江さんのお話は日本の企業関係者にはまさに「目覚まし効果」の強い厳しいご指摘、ご評価があり、一方で客観的かつ建設的な提案も含まれ、米国人学生にとっては日本語学習を継続し、日本企業就職がチャンスであることの説得力の高い内容でした。4つのパネルセッションもモデレーターのリードがすばらしく、非常に盛り上がったものとなりました。質疑応答の時間が短いと感じるほどに活発な質問が学生からも出さ

イベントの司会進行役はマリさんとマイケルでした。このお二人は日本関係企業で働く完璧なバイリンガルです。

イベントは4つのパネルディスカッションや基調講演などで構成され、いろいろな角度や立場から日本語教育のあり方について議論していただきました。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

れていました。幾つかの代表的なものを下記します。

Q: インターンシップのチャンスは？
A: （他の聴衆）ボストンフォーラム的なものがお勧め。いまやボストンに限らずロンドンや東京などでも開催されている。

Q&Aのコーナーでは熱心なオーディエンスから多数の質問があり、時間が足りないくらいでした。

Q: 日本企業の職を得るための就職活動のありかた？
A: （他の聴衆）今回のようなネットワーキングに積極的に参加すべき。日本企業での外国人向けの就職機会は必ずしもうまく宣伝されていないので同窓会、教授、様々なパーソナルネットワークを通じ情報を得ることがポイント。一説には就職機会の7割は宣伝されていない。

Q: 学生へのアドバイス
A: 日米間のブリッジ役も重要だが、グローバル化の中で日本もダイナミックに変革を遂げようとしており、就職するのにラッキーな時期と思うべき。また、言葉や文化の理解と共に、夫々の会社とその固有の仕事に対する情熱が重要。

Q: 日本企業への要望
A: 米大学キャンパスでのキャリアフェアの実施。ボストンキャリアフォーラム的なものはもっと必要。学生に対し、日本企業でのキャリアパスを見せるべき。現状、キャリアパスで日本人と外国人の間で幹部登用に差があると感じる。止めてしまう外国人社員はその差に限界を感じる。人事部は外国人社員の違いを理解しつつも同じ社員としてインクルーシブに対応し、決してダブルスタンダードを作らないこと。1つのグループとして感じさせることが大切。

特別ゲストのひとりとして、ミスバージニアのクリスティン・アドマイヤさんから激励していただきました。彼女は言葉の教育を通じて文化交流を推進しています。

なお、インドラ・レビー教授のお話の中には多くの示唆に富むものが含まれていましたので代表的な部分をご紹介いたします。

- 米国における日本語学習のニーズ（デマンド）は日本語教育機会（サプライ）よりも圧倒的に多い。（日本語教育投資の必要性）
- 米国学生の日本語人気の高さは就職機会（グローバルビジネスに役立つ言語として第7位）もあるが、日本文化への親しみが第一。
- 米国人学生にとって日本語は一番難しいジャンルだが、日本文化への親しみがあるため、長続きしやすい。
- この日本語人気は一過性のものではなく、日本の文化をアメリカ人学生に正しく伝えてきた過去の長年の日本語教育関係者の努力と人間性の積み上げの結果であり、日本人はその努力を認識すると共に、せっかくのこの人気を日米の為に大切な人材の果実として収穫することに腐心すべき。

第4パネルでは、日本関係のお仕事に現在就いている皆さんに参加していただき、体験談などを披露していただきました。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

また、翌日には多くの参加学生から感謝のメッセージを受けました。一部ではありますが、下記ご紹介いたします。

もうひとりの特別ゲストとして元USTRのミッキー・カンターさんから若い人たちへの熱いメッセージをいただきました。

I had a great learning experience from both the panel and also meeting with people. Fukushima-san's presentation was insightful. I would be very glad to help with the symposium in the future. I had been in the working committee of some other conferences, including the OCA convention in DC not long ago. Please feel free to let me know how I can be of help for the Japan-American symposium or even other events alike by the Japan-American council or so. I enjoy supporting the community events and also looking to improve my Japanese knowledge.

最後はイベント参加者によるネットワーキングの機会を設けました。日本語を教える人、学ぶ人、日系企業関係者が一堂に会する珍しい場となりました。

I learned a lot about aspects of the country that I did not know about. Because of this, I have become very interested in Japan's small companies. I was wondering if you had any further information on the needs of SMEs in Japan for foreign speakers of Japanese. I was also wondering if you had advice regarding how foreign speakers of Japanese can find opportunities at these types of companies.

It was the first time to participate in such an event and I would look forward to doing it again. I received a lot of interesting questions afterwards and feel like I was able to help a lot of young people (although I still consider myself young) in their search for a career with Japan. I hope to see you all again sometime in the future and I wish you the best.

当商工会では今回のシンポジウムをきっかけに何らかの形で米国人学生の情報ニーズに応えていく活動を継続できたらと考えております。会員皆さまのご協力、ご提案をお待ち申し上げます。

なお、フクシマさんとレビー教授のブリーフィング資料ご希望の方は事務局にお申し出ください。

以上

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントン日本商工会ファウンデーション　日本語テント「Let's Learn Japanese 日本語できます！」

2012年、日本がワシントンに桜を寄贈してから百周年にあたる今年、ワシントン日本商工会財団とニューヨーク日本商工会財団の共同で、日米知的交流支援、日本語教育支援、タイダル・ベイスン景観整備、全米桜植樹プロジェクト、そして文化交流事業という5つの記念事業が実施された。今回は、その中の日本語教育支援プロジェクトのひとつである、「さくらまつり」での日本語テントについて報告する。

桜の寄贈百周年の今年は、例年の2週間という期間を大幅に延長し、5週間にわたって桜祭りが開催されたが、そのクライマックスとなる4月14日（土）には、毎年恒例のワシントン日米協会主催、「さくらまつりーストリートフェスティバルー」が開催された。これは全米最大の日本のお祭りとも称され、午前11時から午後6時まで、ペンシルベニア通り沿いの6ブロックにわたって、日本の文化、露店、パフォーマンス、食などが紹介される。当日設置される50店舗以上のブースの中の1つとして、商工会財団支援の日本語テントが設置されることになった。

「Let's Learn Japanese 日本語できます！」という名のこのテントは、日本語を話せるアメリカ人の育成という大義のもと、さくらまつりを訪れる外国人の中でも、特に日本語学習に興味がある、学習中である、過去に学習経験があるという3つのカテゴリーに当てはまる人々を対象に、日本語学習への抵抗をなくし、より興味深く学習に励んでもらうことを目的として設置された。

今回のプロジェクトにおいて、商工会、日米協会担当者と共に、企画や準備に加わったローラ・シンボルスキさんは、日本への留学や、JET（外国青年招致事業）経験もある日本語ぺらぺらのアメリカ人。自身の日本語学習の経験も踏まえながら、どのようにしたら魅力的且つ実践的なテント作りができるのかを考え、数ヶ月にわたって計画を練った。そして当日テント内で日本語を紹介するのは、声をかけて集まってもらった商工会会員や関係者、日本語教師、DC在住の日本人、日本語学習経験があるアメリカ人など。表に大きく「日本語できます」と書かれたTシャツを着て、訪れた人と日本語でコミュニケーションを図る。さくらまつりにて初の設置となる日本語ブースには、いったいどのような人々が興味をもち訪れるのか、どのような質問をされるのか、などと不安を感じながらも、わくわくしながら当日を迎えた。

さくらまつり当日の朝は快晴だった。準備担当のボランティアが集まると、早速テント内の飾りつけを開始。テント内の壁には、日本語学習の啓蒙や、常用漢字についてのポスターを貼り、天井からは色とりどりの漢字のデコレーションを吊るした。テントの入り口には、日本語について簡単に説明したパンフレットとラッフル応募受付を設置。ラッフルに当選すると、日米協会主催の日本語学校10週間分の受講料とテキストが贈られることになっていた。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

テント内には、平仮名、カタカナコーナーと、漢字、習字コーナーを設けた。平仮名コーナーでは、日本語の教科書や本、雑誌などが閲覧できるほか、参加者の名前をカタカナでしおりに書いてプレゼントする。漢字コーナーでは、漢字の成り立ちの説明や、漢字学習用の暗記カードを並べて一緒に学んでもらう。そして習字コーナーでは、習字のデモンストレーションなどを行うことになっていた。

午前11時のさくらまつり開場とともに、ぞくぞくと人が入ってきた。まずはテントの外で商工会バッグを配布し、参加者の興味を引く。バッグをもらった人たちがさくらまつり会場内に散らばっていくのと同時に、それを求めて多くの人々がテントに集まるようになった。集まった人々にはテント内を一周してもらい、日本語に興味をもってもらう。

時間がたつにつれて、しおりや習字コーナーには、長い列ができるようになった。日本語に初めて触れた人には、文字の数や成り立ち、平仮名、カタカナ、漢字という種類があることなどを説明する。ハリー・ポッターやスティーブ・ジョブズなどの本の展示コーナーでは、既に英語で読んだ人が、同じ内容であるはずの日本語の本を手にとって、複雑な表情で眺めている姿も見受けられた。日本語を勉強したい！という人も非常に多く、ラッフル応募の列も絶えることがなかった。

午後1時すぎになると、用意したバッグ、パンフレット、おみやげグッズなどが品切れとなり、おみやげにつられることなく、本当に日本語の勉強に興味がある人がテントを訪れるようになった。漢字の成り立ちについて頭を抱えて考えこんだり、日本語上級者の中には、漢字の使い方や日本の学校でどのように教わるのかなどについて興味をもつ人もいて、終了時刻の午後6時まで、テント内でゆっくり時間を過ごす人の姿が目立った。

全体を通して、今回のプロジェクトは成功したと言えるだろう。ラッフルの応募者は800人を超え、アメリカでの日本語学習に対する関心の高さを証明した。ラッフルに応募しなかった人も含めて、1日で日本語テントを訪れた人の合計は5,000名前後と予想される。

また今回は、外国人の日本語に対する興味を促進する一方で、日本人のボランティアが、母国語である日本語の魅力やパワーを再発見する機会にもなった。今回のボランティアの方々の多くは、日本語に興味をもつアメリカ人がこれほど多くいたことに衝撃を受け、感心したようだ。日本食や日

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

本文化を紹介するブースと並んで、日本語テントがこれだけの人気を集めたことに驚き、また日本がもつ魅力を今一度考えるきっかけにもなった。

商工会財団の日本語教育支援としては、今回の日本語テントのほかにも、さくらグラントやジャパンボウル、シンポジウムなどがあり、様々な角度から日本語教育支援を行っている。（詳細：http://www.jcawf.org/japanese/program/cherry_blossom_centennial/education/）機会があれば、次回は別のプロジェクトについても紹介したいが、このテントについては、来年以降も引き続き実施され、より多くの参加者に日本語学習の魅力が紹介されるよう期待している。日本語教育機関ではない商工会が、日本語教育の将来を案じ、先導して支援を始めたことの意義は大変大きく、今後全米各地でも同様の取り組みが開始されることを願ってやまない。

ワシントンDC日米協会
教育プログラムディレクター
神尾りさ

名古屋近郊の明治村の花

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントン日本商工会 新任理事のご挨拶

先月に退任された為村・野田両理事に代わり、新たに着任された理事をご紹介致します。引き続き、会員皆様の益々のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

広報 花井 伸敏（2012年4月～）
Nobutoshi Hanai
Senior Vice President & General Manger of Washington D.C. Office
Mitsubishi Heavy Industries America, Inc.

「理事就任の挨拶と前任地の日系団体の状況について少し」

4月から商工会理事に就任し広報を担当することになりました花井伸敏です。今年3月に赴任し米国三菱重工のワシントン事務所に勤務しています。

ワシントンDC周辺に住むのは初めてですが、2007年7月から当地に赴任するまでボストン近郊（といっても車で30分ほど北に行ったアンドーバーという小さな町ですが）に住んでいました。当地ではベセスダに居を構えることになりましたので、HINATA辺りで見かけることがあるかもしれません。妻と二人の息子（高校のSeniorとSophomore）は、学年の切れ目となる6月までボストンに居て、その後当地に合流してくる予定です。家族が揃いましたら、日本語学校等更に色々な場所で会員の皆様にお目にかかる機会があるものと思います。宜しくお願い致します

広報担当として商工会内外へ情報発信していくことが主要任務となりますので、多くの人が見て・書いて楽しんでいただける会報作り、ホームページ等を利用し情報をタイムリーに提供できる仕組み作りを考えて行きたいと思います。また、商工会の色々なイベントや支援活動にも積極的に参加して、少しでも商工会活動のお役に立ちたいと思います。

ボストンに居たときには、ワシントン日本商工会と同じように日系企業が中心となって会員相互の連携・親睦を図るニューイングランド日系企業懇話会（以下、懇話会）という組織の幹事会メンバーとして商工会理事と同じような役割を担当していました。昨年、夏に立ち上げたホームページが、http://www.jbane.org/index.htmlです。商工会のようにWEBサイトを維持するためのしっかりした事務局があるわけではないので、随分見劣りすると思いますが、ご笑覧ください。

この機会をお借りして、ワシントンとボストンの日系の親睦団体の違いをご紹介したいと思います。

大きな違いは、ボストンには懇話会以外に個人や家族単位での親睦組織であるボストン日本人会が存在する点です。ワシントンの商工会はボストンにおける日本人会と懇話会の役割を負っていることになります。
また、ボストンならではの団体として、JREX（The Japan Resource Exchange）という起業家の親睦会、JaRAN（Japanese Researchers'Academic Network of Greater Boston）という日本人研究者の支援団体や研究者の知的交流を目的としたボストン日本人研究者交流会といった団体が存在します。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

色々な団体が好き勝手に活動している印象を受けるかもしれませんが、日本人会と懇話会、JREXについては、お互いの自主性を保ちつつ、共同でイベントを開催したりお互いのイベントに代表者を招待したりといった形で交流を図っています。

ワシントンの商工会の活動はボストンにおける日本人会と懇話会を合わせたようなものだということで、活動の範囲も活発さも懇話会とは比較になりませんが、それをボストンと同様ボランティアの力で実現しているところが素晴らしいと思います。微力ながら、その一端を担えることになりましたので、頑張りたいと思います。

財務 直木 敬陽（2012年4月～）
Yoshiharu Naoki
Vice President & General Manager, Washington D.C. Office
All Nippon Airways

この4月より商工会理事となり財務を担当することになりました直木敬陽（よしはる）です。
ANAワシントン支店に勤務しております。よろしくお願いいたします。

ワシントンには昨年の4月に赴任しました。妻と二人の息子（11歳、8歳）の4人家族でポトマックに住んでいます。

海外赴任は、今回が初めてで見るもの聞くものすべてが新鮮であっという間の1年でした。商工会の行事へは本年1月に開催された「新春祭り」に初めて家族で参加しましたが、子供たちがまるで日本にいるかのようにとても楽しそうにはしゃいでいたことが深く印象に残っております。

財務担当として、まず自分のミッションを着実に遂行することが先決ですが、新春祭りや日本語学校への支援等々、商工会が展開しているさまざまな活動に積極的に参画しながら、少しでも会員の皆様方のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

第319回商工会ゴルフ・トーナメント結果報告
The 319th JCAW Golf Tournament

第319回商工会ゴルフ・トーナメントを4月15日（日）にBristow Manor Golf Clubに於いて開催致しました。当日は天気にも恵まれ、46名の皆様に参加頂きました。おかげさまで商工会コンペの参加者数は近年増加しており、今後も会員の皆様のコミュニケーションの場として貢献していきたいと思っております。

さて、本コンペでは9ホールペリエ方式にて競い合いましたが、以下の結果となりましたのでご報告します。

優勝	桑原 健 様（NTT）	グロス 89, ネット 66.6
第2位	江口 長市 様（江口観光）	グロス 92, ネット 69.6
第3位	須磨 努 様（ジャパンエクスプレス）	グロス 88, ネット 70.4
ベスグロ	中村 順 様	グロス 77

優勝されました桑原様、おめでとうございます。
また、各賞を受賞された皆様も、おめでとうございます。（商工会コンペでは参加者全員に賞品を用意しております。）

次回コンペは、6月17日（日）に予定しております。また、9月16日（日）にはキャピタルクラシックトーナメントを企画しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

最後に、今回幹事をお願いしました長井様（JITI）、野田様（伊藤忠）、そして賞品を寄贈頂きました寿司組合の各店に厚く御礼申し上げます。

優勝トロフィーを向井商工会理事から受け取る桑原様

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「5年半の駐在期間を振り返って」

米国住友商事・ワシントン事務所　吉村 亮太

ハナミズキ友好大使の皆さんと

海外に住んでいると時間の経つのが早いのは皆さんも感じておられることと思いますが、本当にあっという間の5年半でした。私の駐在生活をひとことで表すならば「満喫」です。ずいぶんと欲張って本業以外のいろいろなことにも首を突っ込み、周囲の皆さんには知らず知らずのうちにご迷惑をおかけしていたのではないかと思うのですが（自覚症状がないので始末が悪い）、もう思い残すことは何もない（多分）という清々しい心境でいまこれを書いています。ワシントンという土地柄もあって、組織の壁を越えていろいろな国・業種・立場の非常にモチベーションの高い優秀な方々と交流し、刺激を受けることができたのはとても大きな収穫でした。振り返ると、いままでのサラリーマン生活の中で、もっとも充実していた時期だったような気もします。

しょせん「習わぬ経」の世界ではあるのですが、当地では毎日平均2コマ程度どこかのシンクタンクのセミナーに出席していたと思いますので、単純に計算すると、駐在期間中は2コマ×5日×52週×5.5年＝2,860コマに参加したことになります。惰眠を貪る姿がC-SPANで生中継されてしまったことが一度ならずともあったように、自分の理解力の及ばぬ内容のときは居眠りすることもありましたので、意識があったのはこのうちせいぜい半分だったとしても、自分の気持ちとしてはいくつか学位を取得したつもりで離米しようと思います（かなり都合のよい解釈）。

帰任後、東京では㈱住友商事総合研究所（ようするに調査部）勤務になります。弊社の研究所は、マクロ経済や市場調査などを行う経済調査部と、カントリーリスクや地政学的な状況をフォローする国際調査部という2本の柱から構成されていますが、私は後者の所属となります。しかしながら、ワシントンに来るまでは営業ひと筋20年の商社マンですから、当地で（見よう見まねで）ちょっと齧ったからと言って、調査・分析の仕事ができるほど世の中は甘くないと思っています。だから、小心者の私は帰国を前に緊張しており、最近消化器系の調子がいまひとつです。日本から訪れる出張者に持ってきてもらった胃腸薬の在庫が底をつくのが先か、離任するのが先か…。

商工会理事の皆さん

最近の私が後ろ髪を引かれている様子は手に取るようにおわかりいただけると思うのですが、何をそんなに満喫していたのか、写真を交えて簡単にご紹介させていただきます。もちろん仕事を満喫していたことは言わずもがなですが（同じ会社の者が読むかもしれないので念のため）、ワシントンはとても魅力あふれる街で、そして素晴らしい人たちがいました。

1.　日本商工会や日米協会

ワシントンでの生活は、商工会や日米協会抜きには語れません。私はたまたま双方の理事を務めさせていただきましたが、とてもいい経験でした。当地での活動に厚みと幅が出ますので、ぜひお薦めです。いずれも少人数で切り盛りしているため、イベント前などはかなりの時

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

間を投入する必要があって忙しくなるのですが、ワシントンを10倍楽しむためにも。今年は東京市（当時）がワシントンへ桜を贈った百周年にあたり、例年よりもはるかに多くのイベントを手がけましたが、本業とはまたひと味違った充実感でした。

恒例の新春祭り

2.　MBA会やバンド活動

単身で過ごした私はMBA(Married But Alone)会のメンバーでした。そういうと誤解を招きやすいのでお断りしておきますが、同会は定期的にホームパーティーやゴルフコンペなどを行う健全な集団です。また、皆さんにはご迷惑だったと思うのですが（自覚症状あり）、同会を主たる活動の場としていたいくつかのバンドのメンバーでもありました。「J Street Band」、「Route 50」、「DC48」。これだけ見ていると、ワシントンではあたかも歌ばかり歌っていたように見えなくもありません。

MBA会、夏のバーベキュー

「Route 50」

DCに住む48歳コンビという意味の「DC48」

3.　ゴルフ

ワシントンにもゴルフ好きがたくさんいます。週末楽しむのはもちろんのこと、連休になるとメンバーを募って、近場ではウィリアムスバーグ（VA州）、遠くはマートルビーチ（SC州）やオーランドー（FL州）で合宿をしました。さすがに移動日は1ラウンドしかできませんが、その他の日は夜明け前から待機してスタートし、最後は暗くてボールが見えなくなるまでまわりました。その割にはスコアの方は一進一退という感じで、赴任した頃とあまり変わっていないのが心残りではあります。

スタート前の早朝練習

4.　その他スポーツ

改めて申し上げるまでもなく、私は運動神経には恵まれていない方ですが、当地でも懲りずにいろいろ参加しては皆さんにご迷惑をおかけしました。選手としてはまったく役立たずでしたが、ソフトボールでは一般企業の者が中心のSenatorsのメンバーでした。同チームでは優勝も経験しましたが（ただし筆者の貢献は皆無）、最下位の苦杯もなめました（筆者の貢献大）。

ソフトボールチーム「Senators」

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

やめておけばいいのに、フルマラソン等にも出場しました。事前のトレーニングをやらないととどうなるのか、身をもって体験。大会後、しばらくロボットのようにしか歩行できませんでした。良い子の皆さんは決して真似をしないでください。

カメラマンを意識して一瞬走る

5.　ワシントンの魅力

ワシントンには四季があり、真夏の蒸し暑さは東京を思い出しますが、総じて暮らしやすい土地だと思います。それでも2009～10年冬の豪雪のようなこともあるので、自然は侮れません。春はもちろん桜。秋は見事な紅葉が市内でも見られます。四季を彩る様々な花もあります。

イーストポトマック公園

吹雪のコネチカットアベニュー

ハナミズキ

当地のもうひとつの魅力は人です。冒頭にも述べた通り、ワシントンにいたおかげで素晴らしい方々に会うことができました。また、芸能人はあまりいませんが、有名人はたくさんいます。ミーハーな私をどうかお許しください。

モンデール元副大統領／元駐日大使

バイデン副大統領

世界の山下

帰国まで残り一ヶ月を切り、ワシントンを離れる寂しさと、ひと足先に帰国しているワシントンOBたちに会う楽しみが複雑に交錯します。先般、休日出勤して後任者が到着する前に所長室の大掃除をしましたが、頭の中で「秋桜」が繰り返し流れていました。お嫁に行くわけでもなければ、秋でもないのですが。本会報2009年5月号に掲載していただいた「懐かしのワシントン」の中でも触れたように、今回は私にとって通算4回目のアメリカで、特にワシントン生活は30年ぶりの2回目でした。いわば第二の故郷。またいつか戻って来られたらいいなあと思いつつ、ひとまずお別れです。

お世話になった皆々様、どうもありがとうございました！東京でお待ちしております。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「国際機関、世界、そして日本　Vol.2～世銀の多様なミッション～」

世界銀行シニアエコノミスト　河内祐典

前号では、筆者が勤務する世界銀行とは何ぞや、についてご紹介しました。今回は、現在の世銀のミッション、すなわち世銀がどのような分野・課題を重視して進んでいるのかについて述べたいと思います。また、前号で少し触れた次期総裁選びも決着しましたので、その概要や内外で見られた議論等についても若干触れたいと思います。

1.　世銀のミッション：援助の先を見据える

前号で、世界銀行とは正式には国際復興開発銀行という名称を持ち、第二次大戦後の荒廃した地（日本含む）の復興を目的とした国際金融機関であると述べました。そして、戦後60年以上が経った今、「戦後復興のためにお金を貸す」という当初の世銀のミッションは既に達成されたのであり、その意味で世銀は現在は何をミッションとして業務を行っているのか、ということが頻繁に議論になるという点についても述べたところです。実際に、世銀を取り巻く内外の有識者を中心に、「世銀は既にその役割を終えたのではないか」「もう世界は世銀を必要とはしておらず、その存在意義はないのではないか」という議論がなされることがよくあります。

（写真右）4月下旬に開催された、世銀IMF春季会合の様子①。こんな感じでキャッチフレーズやトレードマークが飾られます。これはお隣りのIMFのビル。

この点については、米Foreign　Affairs誌本年3/4月号に、現世銀総裁のロバート・ゼーリック氏が、「我々が依然として世銀を必要とする理由（Why We Still Need the World Bank）」というタイトルで興味深い論文を掲載しています。副題は、「援助の先を見据える（Looking　Beyond　Aid）」。現在の世銀が何を目的として動き、複雑化する社会の中で、時代の変化に対応する形でどのような課題に取り組んでいるか、といった点がコンパクトにまとめられていますので、以下、その中で用いられているいくつかのキーワードに沿ってご紹介していきましょう。

①　クライアント第一主義（Working for Clients）

世界銀行は、その名の通り「銀行」すなわち金融機関です。伝統的な業務形態は、途上国の開発・貧困削減に必要な諸施策を考え、その実施に必要な資金を融資するというものです。「処方箋を書き、必要な薬を与える」お医者さんとしての世銀、患者としての途上国、といった例えで良く語られることもあります。それは時には、高飛車で傲慢な世銀、現地の実情も理解せずに札束で途上国の横っ面をはたく世銀、といったステレオタイプで批判されることもありました。ちなみにこうした批判はお隣りの姉妹機関・IMFにもつきものであり、1990年代後半に発生したアジア通貨危機の際には、まさに「処方箋を書き、投薬をした」IMFに対し、一部アジア諸国の指導者は、強い調子で上記のような批判を浴びせました。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

（写真上）世銀IMF春季会合の様子②。世銀ビルに掲げられた今回のテーマは「ギャップを埋めよ（Close the Gap）」でした。

こうした状況の中、世銀が自らを例える際の表現として「ナレッジバンク（knowledge bank）」という用語が多用されるようになってきました。要は、カネを貸すだけのBankではなく、知識も与えつつ、望ましい解決策を途上国とともに考えるBankなのだということ。銀行のみならずコンサル業も行う機関宣言とでも言いましょうか。Foreign Affairs誌のゼーリック論文でも、その点を「クライアント第一主義（Working for Clients）」として表現しています。途上国の開発ニーズが多様化・高度化している中で、それに対応し得る多様な専門家集団を揃え、融資のみならず知識・ソリューションも提供するのが世銀の役割ですよ、というわけです。

（写真右）世銀IMF春季会合の様子③。貧困とその解決との間に横たわるギャップを埋めるべく、世銀等が取り組んでいることが表現されています。この展示物はダンボール製。節約を心がけてますね。

実際に、世銀で働く同僚たちはみな、「私の売りは〇〇です」という看板を掲げて商売をしています。〇〇の部分には、マクロ経済や財政金融といったエコノミスト的なものから、ダム、気候変動、道路、医療、IT、ジェンダー、食料、教育、観光、果ては美術（！）に至るまで、本当に様々なものが入ります。一人ひとりが独立自営の職人とでも言いましょうか。世銀に勤めていた親しい友人から以前、「『開発経済学』を勉強して世銀に入ってくるという道もあるが、それは本当はちょっと違う。自分がもともと持っている（本来開発と直接関係があるとは限らない）専門性を如何に途上国の開発に生かすか、という問題意識で集まってきている人の集団が世銀なのだ」と言われたことがあります。とても的を得た表現だと思います。

② 良い統治、腐敗防止（Promoting Good Governance and Preventing Corruption）

近年ますます重要となってきているテーマです。従来より開発援助の世界においては、援助が効率的に行われなかったりなかなか貧困削減が進まなかったりする現状について、援助の担い手の問題なのか、あるいは援助の受け手の問題なのか、という議論があります。簡単に言えば前者は、「援助の担い手（多くの場合は先進国）が十分な援助資金を出していないから、なかなか効果が上がらないのだ」という主張、後者は「援助の受け手（途上国）にしっかり援助資金を活用する体制が出来ていないために、効果が上がらないのではないか」という主張とでも言いましょうか。もちろんどちらか一つだけが原因などという単純なことはないのですが、主に後者の関連するキーワードがこの「良い統治、腐敗防止」です。

私の最初の世銀勤務は2003年ですが、この時の総裁はジェームス・ウォルフェンソンという人でした。主に金融の世界で頭角を現し、1995年から10年間にわたり世銀を率いた、強烈なキャラクターの持ち主です。彼がよく言っていたのは、「先進国が出している開発援助額の合計は、彼らの軍事費の合計に遠く及ばない。先進国が自国農業保護のために出している農業補助金も然りだ。先進国はこの点考えるべきことがあるのではないか」ということでした。これはどちらかと言えば前者の考え方に立っていますね。

次に着任した総裁はポール・ウォルフォウィッツという人です。元国防副長官、ネオコンといったキーワードでご存じの方も多いのではないでしょうか。彼はどちらかと言うと後者、すなわち「良い統治、腐敗防止」の観点を重視していたように思います。そして現総裁のロバート・ゼーリック氏も、この分野を1つの大きな柱と捉えているのです。ただ資金を貸すだけでなく、その資金が有効に使われるための手立てまでも考える、という意味で、通常の金融機関とは違う意味合いを帯びています。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

（写真上）世銀カフェテリア（社員食堂）。アジア、インド、アフリカ、地中海、アメリカ等、地域ごとのカウンターから選べます。寿司コーナーもあり。

③　援助を超えて（Beyond Aid）

ゼーリック氏のForeign　Affairs誌論文はこの言葉で締めくくられていますが、ここに現在の世銀のミッションが集約されているのではないでしょうか。すなわち、援助を与える先進国・国際機関と援助を受けそれに依存する第三世界、といった二項対立ではなく、途上国が民間主導の経済に移行し、雇用も創出され、生産性も上がり世界市場にアクセスできる、すなわち「経済的に自立できる」環境を整えるために共に歩むのが今の世銀のミッションである、と言えましょう。

有名なことわざに、「飢えた人に魚を与えれば、その人は1日生き延びられる。飢えた人に釣竿を与えれば、その人は一生生き延びられる。」というものがあります。消費されるのみの「魚」を与えるのではなく、その国に最も適した「釣竿」を与え、そして「魚の釣り方」を一緒に考える、というのが今の世銀の役割と言えば分かりやすいでしょうか。

2. 次期世銀総裁決定

さて、もうすぐ退任するゼーリック総裁に代わり、新たな総裁が内定しました。いつものことですが、事前の下馬評ではいろいろバラエティに富んだ名前が挙がりました。例えばヒラリー・クリントン国務長官やローレンス・サマーズ元財務長官、途上国支援に以前から注力しているU2のボーカルのボノ、コロンビア大学のジェフリー・サックス教授などなど。実際にサックス教授は、「世銀総裁になりたい。自分ならいい仕事ができる！」とメディアを通じて熱烈にアピールしました。

最終的には、韓国系アメリカ人のジム・ヨン・キム氏（ダートマス大学学長）、ナイジェリア人のンゴジ・オコンジョ・イウェアラ女史（ナイジェリア財務大臣）、コロンビア人のホセ・アントニオ・オカンポ氏（コロンビア大学教授）の3名の候補者が正式にノミネートされました。そして世銀理事会（世銀に出資する各国の代表で構成）で選定プロセスが進み、4月16日に次期総裁としてジム・ヨン・キム氏が内定したのでした。

（写真右）ジム・ヨン・キム次期世銀総裁。Wikipediaより転載。筆者はまだ直接お目にかかったことはありません。

この人事、いろいろな意味で斬新さを帯びており、内外でいろいろな議論を呼びました。いくつか例を挙げましょう。

①　若い。

キム氏は現在52歳。先ほど挙げました前総裁のウォルフェンソン、ウォルフォウィッツの両氏は着任時に既に還暦をこえていました。現総裁のゼーリック氏は着任時に53歳でかなり若かったのですが、それを更に上回る若さです。

②　政治やビジネスから遠い。

これまでの世銀総裁は、何らかの形で政治やビジネスの世界で活動したバックグラウンドを持つ人がほとんどです。これまでの3人の総裁は言うに及ばず、ベトナム戦争時に国防長官だったロバ

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ート・マクナマラという人もいました。しかしキム氏は公衆衛生の専門家。そして大学人。下馬評に上がらなかったのもうなずけます。

③　アジア系アメリカ人である。

生まれてから5歳までソウルで育ち、その後渡米して米国籍を取得した人ということで、この部分が最もセンセーショナルにメディアで取り上げられました。もっとも、これは余り本質的な点ではないですね。適材適所であれば何系の何人でも良いわけですから。むしろ、今後経済の面でも人口の面でもますます比重が増すアジア、そうした来たるべき「アジアの時代」を象徴する人事と感じた人も少なくないのではないでしょうか。

新総裁は7月に着任予定です。任期は5年。彼は新総裁に内定後すぐにステートメントを出し、世銀入口に書かれている“Our Dream is a World Free of Poverty”のメッセージ（前号参照）を引用して、そのミッション達成のために全力を尽くすと述べました。今後の手腕に注目です。（続く）

河内　祐典（かわうち　ひろのり）
世界銀行東アジア太平洋局シニアエコノミスト。1967年生まれ。1991年大蔵省（現財務省）入省。財政、金融、開発援助等の担当を経て、2010年8月より現職。世界銀行には2003年～06年の日本理事室シニアアドバイザーに続き2度目の勤務。

名古屋近郊の明治村の花

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「DC最後の夜は･･･」

NTT DATA AgileNet 稲葉 由貴子

昨年10月に東京で開催された世界選手権。男子の2位は日本、3位は米国、女子の優勝は米国と言ったら何の競技かおわかりでしょうか。日本でも米国でも、強いのになぜかマイナーな競技が体操です。学校の体育の授業でも、鉄棒やマット運動、跳び箱は、球技と比べると人気がありません。トップ選手は節制と厳しい練習が必要な上、ケガも多く、男性は20代半ば、女性は10代後半がピークと選手生命が短いのも理由かもしれません。米国では、子供のうちは体操クラブに通っていても、チアやブレイクダンスなどに転じることも多いようです。しかし、70代、80代の体操選手もいて、好きな人には続けられる競技でもあるのです。着任前には米国のような誘惑の多い国で（しかも体重を維持しつつ！）体操が続けられるかと思っていたものですが、結果的には杞憂でした。一般の方にはあまりなじみのない競技だと思いますが、マイナー競技にかける想いを少しご紹介したいと思います。

不謹慎ですが、DCへの赴任の可能性があるとわかったとき、私が最初に気にしたのは体操ができなくなるのではということでした。そのため、正式な話になる前に密かにネットでDCエリアの体操クラブを検索し、成人でも練習ができそうな場所があることを確認しておきました。着任前に日本で15年間全く運転をしていなかった車のペーパードライバー教習を受講したのも、Arlingtonでアパートを探したのも、実は体操を続けるためでした。着任後3週間半で車を購入し、その次の週末には練習場所を求めて体操クラブ巡りを行いました。

日本で体操の練習ができるのは、通常は学校や公共の体育館が中心ですが、米国では倉庫や多目的の事業所棟の一角に個人が経営しているクラブも多く見られます。しかし、その多くは子供専用で成人でも練習できる場所は限られます。しかもDCエリアでは成人クラスはなぜか火・木に集中しているため週末の練習場所はさらに限られ、結局オープンジムに通うことにしました。オープンジムに来ているのは小さい子供が多く、成人はいてもブレイクダンスが中心。熱心に体操の練習をしている成人は珍しいので声をかけられることが結構ありました。土曜日に通っていたSterlingのクラブでは、オーナーに平日の成人クラスへの参加を薦められましたが、平日は無理だと答えると、代わりに土曜日は自由に練習してよいと言ってくれました。また、日曜日に通っていたGaithersburgのクラブでは、子供を連れてきていた母親に「刺激を受けた」と言われたり、「みんなで自分たちの子供でなくあなたのことを見ていたのよ」と声をかけられたり････。1年以上ひとりで練習をしていましたが、偶然が重なり、米国で成人の体操機会の拡大を図る女性とネット上で知り合い、近く（Burk）であったことから訪ねて行って、ようやく、いくつになっても体操が上達したいと励む練習仲間と巡り会い、彼女たちがGymnastics Heavenと呼ぶ環境で練習できるようになりました。秋には、彼女が企画した練習試合にもチームの一員として参加しました。

米国で練習を始めて困ったことは、技の名称がわからないことでした。倒立や宙返りなどの用語は知っていましたが、特殊な技になると、一般の人が日本語でもわからないのと同様、どうやって調べたらよいのかもわかりませんでした。自信のない技の練習をするときには誰かに補助してもらいたいものですが、頼みたいにも何と言えばよいのかわからず、仕方なく拙い英語で、ここからこう

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

やってこうしてこういう姿勢でこうする技をやりたいのだが、おそらく私は自分でできるのだが、失敗してこのように落下すると怖いのでここに立っていて欲しいと言うと、よくわからないけど自分でできるというのだからOKという感じでした。無事に成功して、「この技は何というの?」と尋ねると、男性の指導員だったので「名前は知らないけどそういう技はある」という返事。そのために次に別の指導員に頼むときにもまた同じように説明しないといけないということもありました。何回目かにこういう技をやりたいのだけど、と説明したとき、「◯◯をやりたいの」と言われ、その言葉を手がかりに技術集にたどり着くことができました(実際には◯◯は技の名称の一部でした)。

2年近く米国の一般的なクラブに通っていましたが、一夜と言わずわずか2時間ほどの練習の間に20年以上続けていたオーナーが交代したり、クリスマス休暇が明けて2週間ぶりに練習に行くと、裁判に負けて急に退去しないといけなくなったとかで器具がほとんどなくなっていて、「おお、アメリカ!」と思う体験もありました。初めて米国の器具で練習をしたときには、例えば段違い平行棒はこんなにつるつるで硬いバー(日本のバーはざらざらでしなる)で蹴上がりができるのかと思ったものでしたが、いつのまにかすっかり慣れ、帰国が決まった頃にはこのよい環境でもっと練習し続けたいと思うようになっていました。

最後の土曜日、練習後に今はマネージャとなっている元オーナーに、「好きなレオタードをプレゼントするから持って行ってよいよ」と声をかけられました。「Thank you」と言ったものの、ここには子供用のレオタードしか置いていないのにと思ってラックに近づくと、何とその日は半分以上が成人用のレオタードで、しかも私のサイズがわからなかったらしく成人用のプチとSとMが数種類ずつかかっていました。そしてDC最後の日、午後の早い時間帯に引越しを終えた私は、部屋の片付けもそこそこ、夜の練習のためにレンタカーを借りに出かけました。練習後に仲間たちと小さなパーティ。DCにいた2年間、週末は体操を優先したために旅行にもほとんど行かれませんでしたが、その選択が間違っていなかったと確信した夜でした。

名古屋近郊の明治村の花

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「DCじゃ～なるー第8回」

袴田 奈緒子

先頭走者が次々と入れ替わるシーソーゲームを続けてきた共和党予備選もようやく終結。ロムニー氏が事実上の候補者に決まり、副大統領候補選びに関心が移ってきた。迎え撃つオバマ大統領も5月5日、再選に向けた活動を正式に開始。お互いに早くも舌戦の火花を散らしている。

【特異なアメリカ大統領選～勝敗のカギ握る「激戦州」】

国民が直接選挙で国のトップを選ぶフランスのような大統領制でもなければ、日本、イギリス、ドイツのように議会が首相を選出する議員内閣制でもないアメリカの大統領選は仕組みが複雑だ。人口比などに応じて各州には「選挙人」が割り振られ、全体の過半数にあたる270人以上を獲得した候補が大統領となる。選挙人の集計には、各州で最多得票を得た候補がその州の選挙人をすべて獲得する「総取り方式」が用いられる。理論上は、全米でこの「選挙人獲得レース」が行われるものの、大半の州は長年に渡り、政治的傾向が固定しており、選挙活動の効果は限定的だ。おおざっぱに言ってしまうと、黒人やヒスパニック、ユダヤ系、高学歴層などの支持を集める民主党の勢力圏は、北東部や西部（大西洋岸）といった都市部が中心。アングロサクソン系の白人が中心の共和党は中西部や南部などで強みを持つ。

よって、熱い選挙戦が繰り広げられるのは、これ以外の州、つまり共和党、民主党の支持が拮抗している、または流動的な「激戦州（SWING STATE）」が中心となる。ワシントン近郊のバージニア州をはじめ、オハイオ、フロリダ、ノースカロライナ、ネバダ、ペンシルバニア、コロラド、アイオワ、ニューハンプシャーなど「激戦州」に定義されるのは10州前後。オバマ大統領、ロムニー氏ともに、勝敗のカギを握るこれらの激戦州を軸に選挙戦を展開することになる。

この激戦州に関する世論調査が5月7日、相次ぎ発表された。USA Today／ギャラップ社の共同調査では、オバマ大統領支持が47%、ロムニー氏支持が45%。POLITICO／ジョージワシントン大学（GWU）の調査では、ロムニー氏支持が48%、オバマ大統領支持が47%。富裕層のロムニー氏は「庶民の気持ちが分からない」と揶揄されてきたほか、保守派の信頼をなかなか得られず、共和党内の支持基盤の拡大にすら苦慮したことで、当初、オバマ大統領の対抗馬としては「弱小」と見る向きもあった。ただ、予備選が終わり、共和党内がロムニー氏で一本化するに伴い、激戦州での世論調査の数字も上向きつつある。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

激戦州での支持率の推移

	2011 11/6-11/9	2012 2/19-2/22	2012 4/29-5/3
オバマ大統領	49%	53%	47%
ロムニー氏	43%	43%	48%

（POLITICO/GWUの世論調査による）

直近のPOLITICO／GWUの調査では、秋の選挙で「オバマ大統領以外に投票する予定」と答えた人の割合は全体の53%。この理由として「ほかの人に投票したい」と回答したのは11%に過ぎず、大多数（42%）は「オバマ大統領を交代させるため」と答えた。2010年中間選挙の勝利で一段と盛り上がった「何が何でもオバマを引きずりおろしたい」という保守派の「反オバマ熱」は依然として健在であることが伺える。

【「反オバマ」のうねり、その背景には何が？】

「私が大統領に就任したら、就任初日にオバマケアを廃止します！」
「国民皆保険を推進する大統領は社会主義者だ」

共和党の予備選のさなか、各候補者は口々にオバマ政権が最大の成果の一つと位置づける医療保険改革法（通称「オバマケア」）の廃止を公言した。保守派が嫌悪感をむき出しにするオバマケアは、アメリカ史上初めて国民に医療保険加入を義務付けたもの。高齢者向けや貧困層向けなど一部を除き、公的医療保険制度が存在しないアメリカでは5,000万人程度が無保険状態とされる。主要先進国で国民皆保険が実現していない国はアメリカだけだ。

医療保険制度改革を2008年大統領選の公約に掲げていたオバマ大統領。就任当時、議会の上下院で与党民主党が多数を占めていたこともあり、10年3月、医療保険制度改革法の成立にこぎつけた。風邪をこじらせても医者に行けない、がんを患っても治療が受けられない―。貧富の差が医療へのアクセスに直結してしまう状態を改めようとオバマ大統領が取り組んだ医療保険制度改革は、外国人の私たちからすると、一見歓迎すべき話に思えるが、アメリカでは「オバマ憎し」の感情を生み、世論の分断につながった。

なぜか。「小さな政府」を志向する茶会派（ティーパーティー）などの保守派からすると、「オバマケ

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ア」こそ忌み嫌う「大きな政府」の象徴にほかならなかったからだ。「オバマケア」支持派は「貧富の差に関わらず、すべての国民が医療を受ける権利がある」と主張するのに対し、反対派は「医療保険の購入を国民に強制するのは、個人の自由を保障した憲法に抵触する」と訴える。

保守、リベラルで国が真っ二つに割れたこの論争は結局、米最高裁の審理にまで発展。口頭弁論では、保守派の判事から「（政府が医療保険の購入を義務付けられるのならば）ブロッコリーの購入も強制できるのか」という珍質問（？）まで飛び出し、政府が個人に何らかの行動を義務付けることに批判的な見解を示した。6月末と予想される判決で違憲と判断されれば、保守派が勢いづくのは確実で、大統領選の行方にも大きく影響しそうだ。

2月にワシントンで開かれた保守政治行動会議（CPAC）。国内各地から1万人以上の保守派が集結したとされるこの会場でもオバマ政権の「個人の自由の侵害」への反発が随所で聞かれた。怒りの矛先は、すべての女性に対し、避妊薬を医療保険の対象とするよう命じた新政策。この政策によると、中絶や避妊を禁じているカトリック系の病院や団体も、女性職員に対して避妊薬を保険の提供対象として提供する義務を負うことになる。「宗教の自由の侵害」としてカトリック教会やキリスト教右派などから猛烈な反発を招いた。

オバマ大統領はCPAC開催直前に「宗教関連の団体が加入する医療保険は必ずしも避妊薬を適用対象にしなくてもよい」という玉虫色の例外措置を発表したが、後の祭り。「これは避妊薬だけの問題ではない。宗教の自由の侵害であり、政府が我々の生き方を支配しようとする試みだ。決して許してはならない！」（サントラム氏）、「（個人の自由を保障する憲法に抵触しており）社会問題ではなく、憲法問題だ」（ルビオ上院議員）と演壇に立った保守派の大物たちは、一様に痛烈な批判を展開した。選挙の争点が経済に集中し、中絶などの社会問題への注目度が低下している昨今の現状を反映してか、「社会問題ではなく、個人の自由の侵害だ」とする主張が目立った。政治信条に関わらず、個人の自由を尊ぶアメリカの国民性に訴えようという意図が透けてみえる。

信教の自由を求め、新天地に移住した人々により建国された国の成り立ちからか、アメリカ人の「個人の自由」への思いは非常に強い。保守派が特に敵視している省庁、EPA（環境保護庁）は「過度の環境規制を課すことで企業の自由を奪っている」と、教育省は「権限を拡大し自治体（州）レベルで柔軟にカリキュラムを決める自由を奪おうとしている」と批判されていることが示すように、アメリカの政治議論では「自由の侵害」という概念が潜んでいるケースが少なくない。経済、政治から教育、社会問題などあらゆる分野に影響しているこの価値観。最近の大統領選は内政偏重で、外国人が理解しにくい細かい争点が増えているが、アメリカ人特有の精神構造を理解しておくと、少し分かりやすくなるかもしれない。

余談だが、先日日本に一時帰国した際、風邪をひき医療機関を受診した。診察代は1,000円前後。アメリカの10分の1以下だ。こないだ受けたアレルギーの抗原を調べる血液検査は800ドル近くかかった。個人の自由云々という議論はともかく、国民皆保険のありがたみを実感せざるにいられなかった。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントンの映画好きによるリレー連載：第9回
「ワシントンで気ままに映画を語ろう」

うなぎの寝床

ワシントンに来て間もない私にリレー連載の依頼が来たのは、ここワシントンの映画好きの数も多寡が知れているせいだろうか？
などというと、直ぐに「だったら私にも書かせてよ」という声が聞こえてきそうなのが、ワシントンの怖いところ。できる女性・男性がひしめくこの土地で、何とか命脈を保つには、細々とでもワシントン商工会の会報に寄稿し続けるしかないと、迂闊にも簡単に引き受けてしまったのが運のつきというところでしょうか。

映画好きというのはおこがましいのですが、タイトルどおり気ままに今回のキーワード「ベースボール」にちなんだ映画の話をして行きましょう。

イラスト：Yoshikazu Egawa

野球は「ベースボール」ではないという人も居ますが、ここでは野球まで含めることにします。

一番最近見た野球映画は「ROOKIES-卒業-」(2009)。他にも色々とあるだろうにという声も聞こえてきそうですが、日本での興行収入は封切り後4週連続1位を取っていて興行的にはこの年の成功した映画の一つと言えます。漫画のような現実感のなさに今一没入できなかったのですが、一緒に行った息子達は感動しまくっていたので、きっと良い映画なのでしょう、、、もっとも、少年ジャンプに2003年まで連載されていた漫画が原作ですので、私がそのように感じたのも宜（むべ）なるかなです。（ちなみに、私は漫画も好きですので、馬鹿にしているわけではありません。念のため）

原作が漫画で実写の映画になったものは、他にもあります。
「野球狂の歌」(1977)は、日活ロマンポルノ全盛期を支えた加藤彰監督が、木之内みどり主演でアニメを実写化した映画でした。細身の木之内みどりがアニメの水原勇気の雰囲気を出していました。
「ドカベン」(1977)も、藤純子の「緋牡丹博徒」シリーズや菅原文太の「トラック野郎」シリーズで有名な鈴木則文が監督をした実写の映画でした。
どちらも原作は水島新司。当時、野球漫画の代名詞のような存在で、ドカベンのような長編漫画（全48巻）は、高校の期末試験が終わると本屋で何時間も立ち読みしたものです。

阿久悠の自伝的小説を原作とし、篠田正浩監督による「瀬戸内少年野球団」(1984)は、主演の夏目雅子の遺作となり、渡辺謙のデビュー作ともなりました。終戦直後の淡路島における野球少年たちの日々を描いた映画で、自らも野球少年だった郷ひろみの傷痍軍人の役どころも良かったと思います。それにしても、夏目雅子さんが亡くなったのは惜しいなー。

ベースボールに目を向けると、色々な映画がありますが、「フィールド・オブ・ドリームス」(1989)が、一番好きな映画です。禁酒法が始まった1919年シカゴ・ホワイトソックスの8人の選手が八百長に関与してシンシナティ・レッズ相手のワールドシリーズにわざと負けたとされるブラックソックス

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

事件に関係した映画です。原作は、W.P.キンセラの「シューレス・ジョー」。「シューレス・ジョー」というのは、8人の選手の中で、スパイクが足に合わず裸足でプレーしたところから付いたジョー・ジャクソンの愛称。ケヴィン・コスナー扮する一介の農夫が、“If you build it, he will come”という声を聞いてトウモロコシ畑を切り開いて野球場を作ると、、、

アメリカでは、よほどブラックソックス事件が衝撃的だったのか、そのものずばりの「エイトメン・アウト」(1988)などと言う映画も作られています。そもそも、今の大リーガーの年棒からは考えられないような低賃金で野球をしていたホワイトソックスの選手たちがクリーニング代も球団が出さなくなり薄汚れたユニフォームを着ることになったため、八百長事件が起きる前から「ブラックソックス」という渾名が付いていました。事件は起きるべくして起きたとも言えそうです。

この事件の裁判の後、ある少年がジョー・ジャクソンへ向かって“Say it ain't so, Joe!”「嘘だと言ってよ、ジョー」と叫んだとも言われていて、“Say it ain't”「嘘だと言ってよ」の部分だけはメジャーリーグにスキャンダルが持ち上がる度に新聞の見出しを飾っています。

また、ホワイトソックスは、この事件以降、1959年までアメリカンリーグのチャンピオンになれず、ワールドシリーズ・チャンピオンに至っては2005年まで遠ざかっていたことから「ブラックソックスの呪い」と囁かれていました。

日本では、1969年－1971年に発生した「黒い霧事件」が有名ですが、それを直接取り上げた映画というのは無いようです。

ブラックソックス事件が起きたアメリカの禁酒法時代(1919-1933)というのは、これまた映画によく取り上げられています。アンタッチャブル(1987)、お熱いのがお好き(1959)、ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ(1984)、暗黒街の顔役(1932)等々。変に抑制されると、良くないとは知りつつ裏社会の世話にならざるを得ず、そうすると映画になりそうな話題が色々と出てくるということなのでしょうか。チョイ悪に何となく惹かれるのは世の常なので。

「メジャーリーグ」(1989)と続編の「メジャーリーグ2」(1994)、「メジャーリーグ3」(1998)では、メジャーリーグの弱小チームが舞台です。実在するクリーブランド・インディアンズは、1954年のリーグ優勝を最後に長期低迷を続け、1995年のリーグ優勝まで優勝の文字からは見放されていました。映画では、年間の観客動員が80万人を下回れば本拠地の移転が可能になることを利用してフロリダへの移転を目論むオーナーが、ろくでもない選手たちを集めて弱小チームを継続する意図を持っていることを知った選手たちが発奮するというストーリー。弱小チームが、あることをきっかけに快進撃を続けるという筋書きはありそうなパターンで、リトルリーグ版が、「がんばれベアーズ」(1976)。ここでのテータム・オニールもかわいかったけど、やっぱり衝撃的なのはお父さんのライアン・オニールと共演したペーパームーン(1973)。まだ、9歳でありながら、女を感じさせる演技でアカデミー助演女優賞を受賞したのは立派。がんばれベアーズシリーズの後は、泣かず飛ばずだったのか、セックス・アンド・ザ・シティーに出演している程度。名子役は名優になれないというのは、ここでも当てはまるようで。ヘロインやコカインもやっていて、ホイットニー・ヒューストンのような運命にならなければ良いのですが。

「2番目のキッス」(原題「Fever　Pitch」(2005))は、ボストン・レッドソックス・ファンの熱狂振りを見せ付けたラブコメディー。レッドソックス・ファンというのは、実際、熱狂的な人が多く、球場の座席も殆どがシーズンチケットで埋まっていて、ここ何年もシーズンが始まるときにはレッドソックスがホームの試合は満員御礼の状態だそうです。そのシーズンチケットの購入権利は相続できるので、親から子へと途切れることなく毎年購入されて行きます。さらに、シーズンチケット購入権を待つ人も多く、球団が滅多にシーズンチケット購入権を売りに出すことはないのですが、もし売りに出された場合には待機リストの上の人から購入権を得ることができます。待機リストの順番は登録順となり

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ますので、それを相続したいと言ってくる人もいるようです。

レッドソックスの本拠地フェンウェイ・パークは、現在、アメリカ最古（ということは世界最古）のプロ野球場として知られています。そのフェンウェイ・パークが100周年を迎え、ボストンは大いに盛り上がっているようです。もっとも、「ブラックソックスの呪い」ならぬ、1920年のベーブ・ルース（愛称：バンビーノ）の金銭トレードに端を発した「バンビーノの呪い」を破って2004年に漸くワールドチャンピオンにチームを導いた監督として名高いフランコーナ前監督は、最後は追われたレッドソックスに遺恨があるのか、語ることは何もないと言っているようですが。

現在のフェンウェーパーク
出典：Wikipedia リンクはこちら

今年は、日本でもおなじみのボビー・バレンタイン監督がチームを率いていますし、JALがB-787で成田－ボストン間の直行便を就航しました。フェンウェイ・パークにも多くの日本人が押し寄せ、にわかレッドソックス・ファンとしてチームを盛り上げるのかもしれません。

1914年当時の球場正面
出典：Wikipedia リンクはこちら

このあたりで筆を置かないと、ワシントン・ナショナルズのファンから刺されるかもしれませんので、次の方にバトンタッチしたいと思います。

おっと、大事なものを忘れていました。日本では、5月は、ゴールデンウィークで多くの人が遠出をする月。一斉に遠出をするとつき物なのが「渋滞」。ということで、次回のキーワードは「渋滞」とします。交通渋滞に限らず、あらゆる渋滞を取り上げていただきたい。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントン月報（第84回）
「新しいアメリカン・ヒーロー　バッバ・ワトソン」

米国弁護士　服部 健一

今年のマスターズ・トーナメントは、日本ではほとんど無名に近いバッバ・ワトソンが奇跡的な曲芸ショットで逆転優勝した。もう、アメリカのゴルフファンは大騒ぎである。その理由はいくつかある。

まず、彼はアメリカ人であるということ。プレーオフで争ったのは南アフリカ人のルイ・ウェストヘーゼンだった。このウェストヘーゼンは、日本ではほとんど知られていないかもしれないが、2010年全英オープンを制覇した強者である。いつも沈着冷静で落ち着いたプレー振りを、解説者のジム・ナンスは、「まるで禅修行者のようだ」とウェストヘーゼンの最後の「ゼン（zen）」と引っ掛けていた。

とにかく、昨年のマスターズはやはり南アフリカのシャール・シュワーツェル（今回は8オーバーの50位）だったから、アメリカ人としては嬉しいのは当然だ。

次の理由は、何といってもバッバ・ワトソン（本名はGerry Lester Watson, Jr.）は明るい性格で背は高く（191cm）、PGAの中でも最も飛ばす豪快なかっこいい男であることである。そもそもバッバ（Bubba、日本ではブバと呼ぶらしい）と言うニックネームはアメリカでは珍しくなく、簡単に言うと「兄貴」という意味に近い（ビル・クリントン元大統領も小さい頃の愛称はバッバだったという）。

とにかく大らかにゴルフを楽しみ、今までコーチについたこともなく、自己流であらゆるショットを打つ才能溢れる男だが、マスターズを含むメジャー大会に勝つというような野心はあまりなく、PGA大会も今までに3回しか勝っていないダークホースであった。

タイガーとは意外と仲がよく、自己流でなぜあそこまで上手になれるのか調べるため、タイガーは何回も一緒に練習ラウンドをしていた。

ともあれ、こういう陽気なアメリカ人が優勝したのだから全米が喜ぶのは当然だ。しかも、プレーオフの内容が凄かった。

最初の18ホールは二人ともパー。次は10番のミドルホール。

まず、バッバ・ワトソンはあまりに力が入り、飛ばしすぎてフックし、林のど真ん中に（これもバッバゴルフの1つ）。ジム・ナンスが「オーマイゴッド！」と叫ぶ。「我がバッバが危ない」という気持ちなのだろう。それを見たウェストヘーゼンは安全に真中を狙ったが、これも手元が狂ってラフに入れた。冷静沈着といっても緊張しているのだろう。

2打目は、ピンまで235ヤードもあるが、真直ぐで障害はないので簡単そうに見えた。とにかく、彼はその日にはパー5の265ヤードのセカンドショットをホールインしてダブルイーグル（アルバトロ

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ス、マスターズ大会で史上4人目）をしているから、何でもなさそうな距離に見える（最も、我々素人には200ヤード以上のセカンドを乗せることなど考えるだけ無駄だが）。しかし、彼はラフに捕まってショートし、グリーンに乗せることはできなかった。

次は、バッバ・ワトソンの番である。
グリーンまで155ヤード位だが、林のど真ん中の空き地で、木の間を抜いてから直角に曲がるドフックをかけない限り、グリーンの方向へさえ飛んで行かない状態である。とてもグリーンに届くようなショットはあり得ないように見えた（It appeared he would have no shot at reaching the green.）。絶体絶命に見えたが、幸いウェストヘーゼンもショートしているので、バッバ・ワトソンも無理にピンを狙わなくてもよいのではないか、と素人の我々は思う。

ところが、彼はウェッジをフルスイングし（155ヤードをウェッジだって！？）、しかも大フックをかけたボールは林を抜け出すと、右へ直角にガーンと曲がり（彼は左利き）、何とグリーンに乗っただけでなく、ボールはピン側3メートルについたのである！
これだけ曲がって飛ぶボールを正確に後を追って捕らえたカメラワークも大したものである。大観衆が割れんばかりの拍手をしていたのは当然だ。

このときの状態を二人のプレーヤーは、以下のように説明していた。

バッバ：「ぼくはああいうことをするのに慣れているんだ（I am used to it.）。何に直面しているか知っていた（I knew what I was facing there.）。ボールのライは良かった（とてもテレビではそうは見えなかったが）。林の間にギャップはあったが、そこからフックさせて40ヤード位いかなければならなかった（I had a gap where I had hook it 40 yards or something.）。でも、ぼくはフックは得意なんだ（I'm pretty good at hooking it.）。」

彼は翌日の新聞が「奇跡のショット（a miracle shot）」と呼んでいたのを非常に簡単なショット（pretty easy shot）だったと説明しているのには驚かされる。

ウェストヘーゼン：「一体、彼が（林の中の）どこにいたのか全くわからなかった（I had no idea where he was.）。私がいたところから見ていて、ボールが飛び出した時、それはまるでカーブみたいに曲がって飛んでいた（Where I stood from, when the ball came out, it looked like a curve ball.）。信じられないショットだ（Unbelievable shot.）。あのショットで彼がトーナメントに勝ったのは間違いない（That shot he hit definitely won him the tournament.）。」

彼は、あのショットは簡単なショットでなく、ミラクル・ショットであることを認めていた（だからバッバが、簡単なショットだったと言っていたのはちょっと言い過ぎだが、彼はそれだけお調子者なのだ）。

しかし、バッバ・ワトソンという男は、フィル・ミケルソンと似ていて、大変な飛ばし屋だけでなく、そういう曲芸ショットを難なく打てる男なのである。それでも、マスターズに勝てるという噂は全く出ていなかった。それほど下馬評の高かったタイガー・ウッズやフィル・ミケルソンは凄く、ローリー・マキロイやフレッド・カプルス達は才能があるのである。

しかし、マスターズのような大大会に勝つためには運が必要なのだ。ワトソンのボールは、林の真中でもスタンスが十分あったので、曲芸ショットが打てた。

一方、前半で崩れたミケルソンの林の中のボールはスタンスを取るどころではなく、右打ち（彼は

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

左打ち）を2回してやっとラフに出て、結局トリプルボギーで、この時点で優勝から脱落したのだ。同じ林の中でも運が大きく左右する例だ。

バッバ・ワトソンが最後のパットをタップインして、ボールをカップから拾い上げた顔は泣き顔寸前になっていた。あいつはノー天気で泣く奴ではない、と誰もが思っていたのに。キャディーが抱きつき、ワトソンを放さない。そこにお母さんが入って3人で抱き合った（お父さんは昨年死去していた）。バッバ・ワトソンはもう涙、涙である。ワトソンの奥さんは、フロリダの自宅にいた。理由は、ワトソン夫妻は子供ができないため、生まれたばかりの赤ちゃんの養子を数週間前にもらったばかりで、手が離せなかったのだ。

ワトソンは言った。「早く家に帰って子供の顔を見たい。ぼくは有名になろうとするためにスポーツはしない（I don't play the sport for fame.）。有名になろうとしてトーナメントに勝とうともしない（I don't try to win tournaments for fame.）。ぼくはそういうことはしないんだ（I don't do any of that.）。ぼくは単にぼくなんだ（It's just me.）。ぼくはバッバなんだ（I'm just Bubba.）。ヘラヘラしたり、冗談言ったりするんだ（I goof around, I joke around.）。ぼくはいつもぼくでいて、ゴルフをしたいんだ（I just want to be me and play golf.）。」

こういうマイペースで明るい兄貴的性格が、アメリカン・ヒーローになる最大の理由の1つだ。
これに対し、タイガーは勝つことしか人生の目標がないような伝道師的ゴルフをしようとする。そこには余裕が全くない。

しかし、彼にはその理由がある。タイガーは黒人だから証明しなければならないのだ。だから、タイガーを非難するのは、アメリカ人がアメリカの醜さを指摘するのと同じである。
このような人種問題はつい最近のアイスホッケーでもあった。ワシントンDCのキャピタルズがプレーオフの最終戦で昨年のチャンピオンのボストン・ブルーインズを破った時、オーバータイムで勝利のゴールを決めたのは黒人プレーヤーだった。ボストンファンの一人は、「お前みたいな黒人野郎はアイスホッケーはするな、殺してやる！」というメールを送り、全米が騒然となった。アイスホッケーのプレーヤーはほとんど白人で、黒人は数名しかいないため、今でもこういう問題が生じるのである。

いずれにせよ、タイガーは、優勝したバッバにすぐにツイートした。「バッバ、おめでとう（Congrats Bubba Watson.）。すごい創造的ショットじゃないか（Fantastic creativity.）。来年のチャンピオン・ディナーの創造性はどんなもんかな？（Now how creative will the champion dinner be next year?）」
マスターズ・トーナメントでは、大会前にチャンピオン・ディナーという前年のチャンピオンが主催するディナーがあり、そこには歴代のチャンピオンが招待される。来年はバッバ・ワトソンがタイガーやミケルソン達を招待することになるのだ。
昔、タイガーが優勝した時、ファジー・ゼラーが「タイガー、来年用のチャンピオン・ディナーはフライドチキンやコラードグリーン（南部の代表的な黒人料理）でも出すのか？」と冗談を言って、大騒ぎになり、結局、彼は公式に謝罪したことがある。

タイガーは、今回は散々な調子で、ミスショットごとに悪態をついていたが、彼の性格は決して悪いものではない。アメリカ社会における黒人であるからこそ、強くならなければならない運命にあるのだ。

ともあれ、タイガーにミケルソン、そして新ヒーローのバッバ・ワトソンとアメリカのプロゴルフはこれからが楽しみになってきた。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

グレタ・ガーウィグ～人助けに使命感を燃やす女子大生を熱演～映画『Damsels In Distress』

米国弁護士　長野 さわか

【映画あらすじ】

Damsels In Distressとは囚われの姫君のこと。主役の美人女子大生ヴァイオレット（グレタ・ガーウィグ）は若くして、人の悩み、恋愛などに明確な答えを見つけたと確信している。だから、周囲の女子学生にも適切な恋愛アドバイスをし、仲良し三人組でうつに悩む学生の救済をミッションとしている。キャンパスに設立した自殺防止センターで、自殺未遂の学生にタップダンス教室を開き、独特のセラピー手法を実践している。

転校生を取り巻く仲良し三人組のデートのお相手にもヴァイオレットの独自理論が生かされる。それは、カッコいい男子より、負け犬と付き合うこと。デキる女子と付き合えば、平凡な男子も感化されて向上するから、だそうだ。だが、恋愛と実際の男女の関係はヴァイオレットの沈着冷静な理論とは相容れない。彼女らのキャンパス・ライフを中心に恋愛を描く青春モノ。

監督は「The Last Days of Disco」（1998年）のウィット・スティルマン。14年ぶりの作品である。

【青春映画】

映画といっても、ジャンルによって、人それぞれ好み、こだわりがある。しかし、青春映画だけは、誰もが見たことがあるジャンルなのではないであろうか。あまり映画を見ない母親ですら、若かりし頃、黄色い声を出しながら石原裕次郎を見ていた。そして、青春とは言えない年齢になっても、二十代の頃に見た青春映画を改めて見ることで、当時のみずみずしい感性や甘酸っぱい青春の思い出が蘇って涙腺がゆるんでたりする…。こういった意味で、青春映画は幅広い楽しみ方のできるジャンルといえる。

青春映画の定義というと、学園モノもあれば、若さゆえの悩みや迷い、過ちなどを描いている映画といったところだろうか。普遍的に誰でも共感できる映画と思われる。私は青春をとっくに過ぎた今でも時々見ているので、今回は、「もうこの歳になって青春映画など見ない」と思っておられる方に、独断と偏見で80年代、90年代、2000年代の青春映画を一本ずつご紹介したい。

『アウトサイダー』（原題『The Outsiders』1983年）

ブラット・パックの代表作。ブラット・パック（Brat　Pack）とは、80年代に青春映画で活躍した若手俳優の一団をさす。日本では「ヤングアダルト」と呼ばれていたように記憶している。フランシス・コッポラ監督作。ブレイク前のトム・クルーズやパトリック・スウェイジ、ダイアン・レインなどが初々しい。スティービー・ワンダーによる主題歌「Stay　Gold」も素晴らしく、映画の内容と相まって心に残る作品だ。富裕層と貧困層の格差が浮き彫りにされた作品で、未来に希望を持てない日本の若者たちと重なる部分も…。

それにしても「あの人は今」ではないが、かっこよかったトーマス・ハウエル、マット・ディロン、ラルフ・マッチオは何処。

『ギルバート・グレイプ』（原題『What's Eating Gilbert Grape』1993年）

家のドアから出入りできないほど肥満で過食症の母親と知的障害を持つ弟と暮らすギルバート・グレイプをジョニー・ディップが熱演。弟役に19歳のレオナルド・ディカプリオ。ブレイクする前のディ

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

カプリオは知能に障害のある少年という難しい役を難なくこなし、主演のジョニー・ディップを食うという怪演技を見せた。そして、その実力を裏付けるかのごとく、オスカー助演男優賞にノミネートされた。この演技を見ていただければ、ディカプリオは単なる「顔だけ男」でないことがお分かりいただけると思う。

絶えず問題を引き起こす弟とそれに対して何もできない母親のために、一日中奔走している兄。彼は家族の言動に縛られて、自分のためには何もしないし、できない。この映画において、母親の過食症（これは一種の依存症）はもちろん、ギルバート自身も、家族への献身という名目のもとに、ひたすら自己犠牲的にとりなし、いつのまにか自分の行動をがんじがらめにしていた。この自己犠牲という勘違いの倫理観にとらわれたギルバートにもやがて変化が訪れる。それは、キャンピングカーで旅暮らしを続ける少女ベッキー（ジュリエット・ルイス）との出会い。これが彼の内面をも変える契機となったのだ…。

『ガーデン・ステイト』（原題『Garden State』2004年）

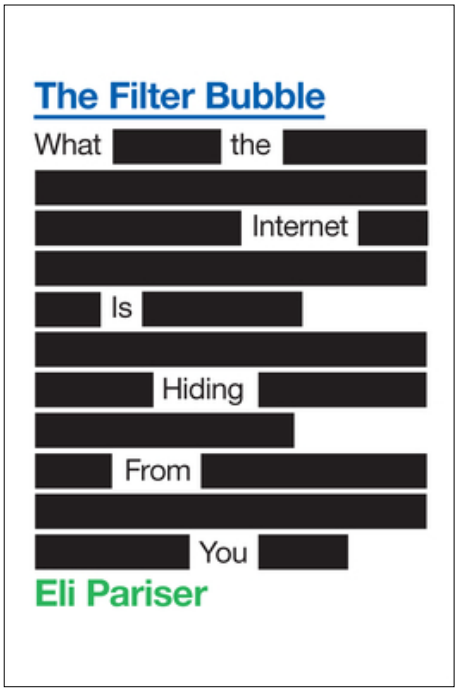
ガーデン・ステイトとはニュージャージー州の愛称。主人公アンドリュー（ザック・ブラフ、監督、脚本、主演）は、精神安定剤を服用し、ロサンゼルスでウエイターとして働きながら、俳優を目指している。その日常はといえば、仕事に行く以外は、ワンルームのアパートに引きこもり、外界との接触も殆どないような低迷した日々。ある日、実家のニュージャージーの父親から母親の死の知らせを受ける。10年ぶりに母親の葬式に参列するために故郷ニュージャージーに戻ったが、彼の目から涙は落ちない。高校時代の旧友との再会、そして神経科の待合室で、偶然出会うことになる風変わりなサム（ナタリー・ポートマン）。まだ初々しいポートマンが、アンドリューと父親を再び結びつけるサム役を見事に演じている。

この映画の監督、脚本、主演俳優としてサンダンス映画祭に挑戦し、映像作家として幸運なデビューを飾ることになったザック・ブラフは、自分の故郷ニュージャージー州で本作品を撮影。制作費250万ドルで興行収入3,500万ドルを上げた。2001年の人気コメディー「Scrubs」（NBC）でブレイクして一躍有名になった。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の書評
「フィルター・バブル」
イーライ・パリサー

ポトマック・アソシエーツ　池原 麻里子



「フィルター・バブル」
イーライ・パリサー（ペンギン・プレス）

本書の副題は「インターネットがあなたから隠していること」。著者パリサーがいう「フィルター・バブル」とは、インターネットのパーソナル化が進んだ結果、ユーザーが独自の情報世界に住むようになっていることを意味する。パリサーは500万人のメンバーがいるリベラル政治非営利組織MoveOn.orgのエグゼキュティブ・ディレクターだった人物である。

あなたはご自身がグーグルで検索した結果が、隣りの人の検索結果とは異なることをご存知だろうか。著者は友人二人に「BP」を検索させて、実験をした。2010年春のことだ。両人は東海岸在住の高学歴でリベラルな白人女性だが、検索結果は全く異なった。一人が第一ページで見たのは、BPのメキシコ湾原油流出事故に関するニュース、もう一人は投資に関する情報ばかりで、原油流出事故のニュースはBPの広告だけ。検索結果の件数も1億8,000万件と1億3,900万件と異なった。比較的、似ている二人でこんなに検索結果が異なるのだから、テキサス州在住の高齢の共和党支持者や、日本人サラリーマンが同じくBPを検索したら、さらに異なる結果が出たに違いない。

これはグーグルが2009年末から検索をパーソナル化したからだ。居場所、使っているブラウザー、過去の検索案件といった57のシグナルを使って、ユーザーが誰で、どういうサイトを好むかという推測をするようになった。ログアウトしていても、検索結果はカスタマイズされる。その結果、例えば「気候変動」について検索した場合に、環境保護活動家と石油企業重役では異なった結果が出るため、両者がその問題に対して抱く認識はますます乖離していくことになるのだ。インターネットによって世界が広がるはずが、パーソナル化によって狭まれている。

CNNやヤフー、MSNなどインターネット・サイトのトップ50は、平均それぞれ64のデータ入りクッキーとトラッキング・ビーコンをユーザーのコンピューターに設置するという。著者のフェースブックに、美人からのフレンド・リクエストが来た。よく見ると目が大き過ぎて不自然だ。著者やその友人の情報を得ようとするCG製アバターだったのだ。このような手法は過激としても、普通に得たデータは広告用に売却され、広告主はそのデータを利用して、ターゲットした広告をうつ。つまり、無料なサービスを利用する代償は、ユーザー自身に関する情報なのだ。この情報は貴重で高額で売買されている。インターネットを駆使するのはユーザーのはずだが、実は利用されているのかも知れない。

個人データ企業アクシオムは米国民96%、世界中5億人に関して、家族の氏名、住所、クレジットカード、ペット、常用薬など、一人平均1,500件のデータをそのデータベースに収集していると

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

いう。9・11同時多発テロ直後、CIAやFBIは他にもテロリストがいるか必死に捜査した。そして3日後、FBIはハイジャック犯人たちの氏名を発表し、彼らに対する情報提供を呼びかけた。FBIに電話してきたのはアクシオムの役員マック・マクラーティー（クリントン大統領首席補佐官）。同社のデータベースを調べたところ、ハイジャック犯人19人中11人の住所やルームメートの名前といった情報が見つかったのだが、それは米政府が所有する全情報より豊かだったという。

このように、知らずに収集されている個人情報だが、保護手段を真剣に考える時期だと著者は主張する。プライバシー原則を明らかにすること、個人情報の利用についてオプトアウトではなく、オプトインにすること、個人情報を私的所有物として扱うことなどが考えられる。グーグルなど企業側がオンブズマンを設置することも一案だ。

世界各国でインターネットが普及し、生活の中心となりつつある。が、気をつけなければ、一部の米企業が世界中の数十億の人々の仕事、娯楽、通信の方法を一方的に支配するかも知れない。

（NEW LEADER 2012年3月号より転載）

Illustration by Emi Kikuchi

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

連載小説「ワシントン・スクランブル」
～第四話　新緑の香り～

愛川 耀

～前回までのあらすじ～　ワシントンに単身赴任している新庄透（45歳）はテンプスタッフとして勤め始めた若い女性、黒木アリサ（25歳）に惹かれている。彼女と夕食を約束した晩、東京にいる妻の幸子から会社に電話がかかって来た。

●●●●●●●●●●●●●

まさにこれからデートだという晩に、妻からの緊急電話。
こんな不幸な巡り合わせがあるものだろうか。
「大変って、いったい何が大変なんだ？」
「お義母様が家で転んで救急車で病院へ運ばれたの。今連絡があって・・」
透は二男で七十五歳になった母親は父の死後一人で暮らしている。幸子の話によると気丈な母は自分で救急車を呼んだらしいが、脊髄を傷めた可能性があるらしい。
「兄貴はどうしたんだ？」
「お義兄様達はゴールデンウィークでハワイに行っているそうよ。お義母様から連絡先のホテルの名前を伺ったの。あなたの方で連絡してみてくれない？」
長引いた電話を終えて時計を見ると、アリサと約束した七時を既に過ぎていた。日本は朝の八時でハワイは既に深夜の一時ぐらいだ。幸子はこれから病院へ向かい、主治医に話を聞いてから折り返すと言う。母の容体が心配でないわけはなく、アリサとデートに行ったところで、食事を中断して幸子と兄と電話で連絡し合わないわけにはいかない。
透は覚悟を決めるとレストランで落ち合う約束をしていたアリサの携帯に電話をした。
事情を説明し会食はキャンセルしたいと申し出たところ、電話の向こうでしばらくの沈黙があった。
「聴いている？」不安になって透が尋ねる。
「ええ。それはお大変ですね。わかりました」
「本当にすまない。レインチェックで、今度仕切り直すということで」
透が詫びを入れると、電話の向こうでアリサが笑った。
「ドタキャン、高くつきますよ。今度があれば、ですけれど」
彼女特有の皮肉かもしれないが、今度があれば、という台詞が気に掛かる。ドタキャンを撤回して彼女が待つレストランへ向かいたいという気持ちがもたげたが、大の男が一度キャンセルを宣言した手前そうもいくまい。
「じゃ、今度必ず」透が念を入れると、アリサが無言で電話を切った。待ちぼうけを食わされた上に約束を反故にされて怒っているに違いない。

幸い母の怪我は脊髄に軽いひびが入っただけで神経には異常が無く、コルセットを付けて病院に一カ月ほど入院すれば元通り回復するとのことだった。
「ひびが反対に入っていたら神経を損傷して歩けなくなっていたかもしれないんですって。お義母様、ラッキーだったわ」

＊愛川耀氏（ペンネーム）はJCAW会員。ブログでワシントン生活を綴るフォトエッセイを連載中。（http://blogs.yahoo.co.jp/aikawaakihome）東日本大震災一周年を機に小説『絆』を上梓（http://p.booklog.jp/book/43069）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

電話の向こうで幸子が安堵の声を洩らした。このところ母の入院の件で妻と電話で話すことが多くなった。病気の親の介護とか親の急病や死去、最近同年代の仲間うちではそんな話題も増えており、それを自覚する度にアリサとの年齢差を意識しないわけにはいかない。何しろ向こうは親がまだ自分達と同年代に相違ないのだから。

新緑の青葉が揺らぐ街路樹を見上げながら、透は思わず溜息を洩らす。

アリサとのデートの仕切り直しを目論みたいところだが、不運にも東京からの出張者だとかニューヨークへの緊急な出張が重なってしまった。ドタキャンを繰り返すわけにはいかないので、予定を組む際には慎重にならざるを得ない。

ひょっとしてこれは見えざる神の企みだろうか、と疑いたくなる。あの娘とデートなどしたら引けなくなる可能性もあるぞ、と暗黙に忠告されているのだろうか。

いや、そんな風に考える度にアリサに惹かれている自分に気づく。まだロクな会話も交わしていないのに、彼女の存在そのものに魅せられているのだ。本人のことをよく知らずに悶々と妄想を重ねるより、一緒に食事でもしてじっくり彼女を観察し、歳の差をしっかり確認して諦める方が懸命に思えてきた。

ヴァージニア州側のグレートフォールズにあるオーベルジュ・ド・フランスは当地でも有名な老舗のフランス料理店だ。五月の新緑を愛でるのに向いた店は、と知人に尋ねて教えてもらった。ここでプロポーズする人もいるそうで、雰囲気の良い店らしい。

週末に逢うことを了承してもらい、透は車でジョージタウンに住むアリサを迎えに行った。何処へ行くんですか、と尋ねる彼女に、この前のお詫びに素敵な店だ、と胸を張る。

レストランの表玄関は一見山小屋風で、赤い窓枠が初夏の緑に映えていた。案内された戸外のテラス席には庭樹と花が並び、奥には洒落た東屋が立ち、若葉が生い茂る木立と広い芝生の庭に囲まれている。リゾート地のレストランのような趣だ。

アリサは、綺麗！と喜んでくれ、彼女が振り向けてくれた笑顔に呼応して、透の胸に甘酸っぱい想いが湧いた。軽やかなシフォンのワンピースを着た姿を眼にするだけで胸がときめき、そんな単純な反応を示す自分が嬉しくもある。

ロゼのシャンパンを抜いて、待ちに待った二人のディナーが始まった。

差し障りのない話題を、ということで仕事に関連した話を透が持ち出すと、アリサはフレンチパテを切りながらこちらを睨んだ。

「私、週末は仕事のことを考えないようにしています」

「それもそうだな」透は慌てて同調する。しかし、生い立ちや家族など個人的なことを尋ねると嫌がられるかもしれないし、映画とか音楽の話題は若い子と話が合うはずがないので憚られる。

「で、新庄さんの奥さんって、どういう方なんですか」

突然の質問に透はびくりとし、急に左手の結婚指輪が気になり手を引っ込めた。

「どうって、普通の女房だ。うちは共稼ぎで出版社に勤めている」

「キャリアなのね。で、お料理とかお上手ですか？」

「いや、料理はからきし駄目だね」

もうこの話は終わりにしたくて透が手短に答えると、アリサは得意な顔をした。

「私、こう見えても料理って好きなんです。祖母からいろいろ教えてもらいました」

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

どうやらアリサの両親は彼女が小さい時に離婚したらしく、働きに出た母親に代って祖母に育てられたらしい。父親のことは良く憶えていない、と彼女は語り、何時もは気丈にさえ感じられるアリサがふと垣間見せた淋し気な表情に透の胸が勝手に呼応する。しかし次の瞬間には、彼女は再びケロっとした表情で好きな食べ物について熱心に語っているのだった。

二人で何の話をしたか、よく思い出せない。ワインのグラスを空け、ロブスターのソテーに舌鼓を打ちつつ、実は彼女の表情に見惚れてばかりいた。どう見ても現代っ子にしか見えないアリサが、祖母の影響なのか結構古風な考え方をするということを発見したのは密かな喜びで、食事中は二十歳の年齢差を無視していられた。

デザートのスフレを分け合って食べながら、さてこの後どうしようか、と透は悩む。

無論彼女をジョージタウンへ送り届ければいいわけだが、それだけにしたくない下心が無いと言ったらウソになる。

いや、これは飽くまでも部下に食事を奢るという話だったのだから、それ以上なんて難しいことを考えるわけにはいくまい。アリサの美しい顔を眺めているだけで十分に満ち足りた時を過ごせたのだし、初めてのデートなのだから、急いては事を仕損じる、だ。

食事を終えてアパートの前まで送り届けると、彼女は、ありがとうございます、とお辞儀をした。

「じゃ、会社で」透が尤もらしい顔付きで言うと、アリサは車を降りてから振り向いた。

「新庄さん、またデートしましょう」

ダウンタウンのベックはベルギービールを700種類以上置いているモダンなバーだ。フレンチレストラン、マルセルと同列の経営だそうで料理も美味しい。

「どうもそれは昔風に言うとメッシー君という役割だな」

透がアリサとのデートの経緯を打ち明けると、商社マンの友人篠原はグラスを傾けながら冷やかした。確かにその通りかもしれない、と透も自嘲の笑みを浮かべる。

「俺はそれでもいいと思っている。一人でメシを食うのはやはり侘しいものがあるから、それだったら若い綺麗な子と食べに行く方が余程いい」

そう自分を納得させたいばかりに、声が少し力んだ。

「それはそうだ。バンコクに駐在していた時に、夕食デートをしてもらう契約で現地の女の子に金を払っていた単身赴任者がいたな。ご飯を作ってもらって一緒に食べる契約っていうのもあるらしい」

「おいおい、そういう途上国の話と一緒にしないでくれよ。こっちは自分の力量で女の子とメシを食べているんだからな」

透が不愉快さを声に滲ませると、篠原が笑った。

「だからさ、何も夕食デートと決めつける必要はないじゃないか。その娘に本気で惚れているんだったら、彼女にすべく積極的にアプローチしたらいい」

どうやら単身赴任馴れしている篠原にはそういう彼女がいるらしい。しかし透は若くして幸子と結婚し、自慢ではないが妻以外の女性と付き合ったことがない。その一線を踏み越えていいものかどうか迷っているわけで、いや、それ以前の問題として、アリサのような若い女性がこちらを振り向いてくれるという自信は、まったく無かった。

今のうち、だぞ。篠原の声が耳に残っている。老いぼれる前に・・。

ベッドで悶々と考えていると、枕元の携帯電話が鳴った。発信者は妻の幸子だ。

「こんな遅くに、何なんだ？」

透がいささか無関心な声音でそう言うと、幸子は思い掛けない提案をした。

「ねえ、私、そっちへ行こうと思うの」（続）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の簡単レシピ：「豚のヒラヒラ揚げ酸味浸し」

フードクリエイター　木内 由紀

少し体を動かすと汗ばむ季節がやってきました。これから夏に向け我が家では、食欲を増進させてくれるお助け調味料、お酢とカレー粉の消費量がグンと増えて来ます。

ここアメリカで身近に揃う厚切りのお肉をスライスし、ヒラヒラっとした感じに揚がるので、ヒラヒラ揚げ。食欲そそられる酸味ダレに浸して頂く我が家の人気レシピをご紹介します。

豚のヒラヒラ揚げ酸味浸し（4人分）

≪材料≫
・豚ロース肉（2cm程度の厚みのもの）：：450g
（醤油+紹興酒：：各小さじ1強）
・コーンスターチ（片栗粉）：：大さじ3～4

・酸味ダレ
☆生姜すりおろし：：1かけ
☆醤油：：大さじ2
☆紹興酒（みりんでもOK）：：大さじ2
☆中華だし（鶏がらスープ顆粒）：：小さじ1/2
☆砂糖小さじ2
☆練りゴマ：：大さじ1

・酢：：大さじ2
・ごま油：：大さじ2
・すりごま：：小さじ2程度

≪作り方≫
【1】豚は1cmくらいの間隔で、一口大に削ぎ切りしビニールに入れ(　)内の下味と揉み合わせ5分置き、コーンスターチを加え、ビニールを膨らませて振り、豚肉に絡ませる。

【2】340°F（170℃)に熱した油でからりと揚げる。

【3】酸味ダレの☆は耐熱容器に合わせ、レンジ（1000w）で40秒程度加熱。ブツブツと煮立ってから一呼吸おいて止める。
粗熱がとれてから酢、ごま油、すりゴマを混ぜ合せる。

【4】油を切った豚肉は熱いうちに[3]の酸味ダレに絡め、粗熱がとれたら頂きます。

≪ポイント≫
豚肉は筋に対して垂直に包丁をいれ切ると食感柔らかく頂けます、また揚げ時間が長くなるとせっ

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

かくの肉がパサつきますので、油に浮いてきて揚げている音が小さくなった頃にさっと揚げる事がポイントです。

●酸味ダレ（3）は清潔な容器に入れ、冷蔵庫で1週間保存可能です。揚げた豚肉の他、茹でた豚肉、またはその他のお肉や白身魚の竜田揚げ、お豆腐、サラダ等にも良く合います。

●ここで使っている練りゴマは以前（2011年7月号）ご紹介し芝麻醤を、紹興酒は料理用の紹興酒を使用しています。

どちらも韓国スーパー又はアジア系のスーパーで購入できます。

・・・

English Rescue by Jennifer:
「日本人が間違いやすい英語表⑬」

ジェニファー・スワンソン

A/AN/THE – articles (前置詞) Part 1

English has 3 articles – A/An/The. Japanese has zero. Turkish has zero. Spanish has 8 articles – el/la/los/las/un/una/unos/unas. (This is the extent of the languages that I know……)

Each language has its own challenges. Naturally when Japanese people speak English, they do not realize how to use the articles correctly. Rather, they have to study the rules and try to use articles correctly through a lot of practice.

Jennifer's advice: try to use an article before every non-count noun. Even if you over use articles, it's better than under using them.

A is used before nouns starting with a consonant sound:
-A dog, a car, a teacher

An is used before nouns starting with a vowel sound. (注意:not all words that start with a vowel have a vowel sound.
-An apple, an umbrella, an hour …….. A university

Practice:
Fill in A or AN as appropriate.

1. Do you have _____ table?
2. There is _____ squirrel in the tree.
3. It takes _____ hour to get there.
4. She is _____ unique girl.
5. Do I need _____ apostrophe in this word?

Answers: 1. A, 2. A, 3. An, 4. A, 5. An

Please feel free to email me anytime with questions or suggestions for future English Rescue.
Jeniko3@gmail.com（日本語でどうぞ）

～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。
日米でのさまざまな経験を基に、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

日米協会英語レッスンでは第7期生徒を募集中です。詳しくは:http://www.us-japan.org/dc/pdf/2011/ELS%20Spring%202011%20Registration.pdf

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

5月号　編集後記

桜祭りの一連の行事が終わり、早くも5月を迎えました。会員の皆様におかれては、桜寄贈百周年を記念した様々なイベントに参加し、これまでの日米関係の歩みを振り返り、また、今後の両国の関係に思いを寄せた方々も多くいらしたものと存じます。5月18、19日には、ワシントン近郊のキャンプデービッドでG-8サミットが開催され、再びワシントンの町は、国際政治・経済の注目を集めることになり、夏以降は、11月に向け、大統領選挙一色に染まっていくことでしょう。激変する環境は、ワシントンの宿命ともいえます。

目まぐるしく変化するワシントンの日本商工会も、これから夏にかけて、長年当地にて活躍された会員の皆様がご帰国となるのは、大変残念かつさびしくも思うのですが、他方、同時期は新たな会員を迎えることにもなり、大きな変化を迎えることになります。当商工会会報は、日本・日米関係のビジネスに関与する関係者や当地在住の日本・日米関係に関心を持つ会員の方々のネットワーキングの場のみならず、これまで当地に駐在された方々にとり、引き続きワシントンとの関係を維持するパイプとしても、ご利用いただき、また、新たにワシントンにいらっしゃる方々の身近な情報誌としてご利用いただければと願っています。

このような願いを込め、5月号も、幅広い分野で活躍される会員等の皆様よりご寄稿を頂き、盛りだくさんの内容となるよう努めました。ぜひお楽しみください。

伊藤、花井

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。